

「ビジョンを語る会」主な意見 西協商工会議所青年部・西協青年会議所

実施日： 10月10日(土) 人数：10人

(北播磨を高年齢者特区に)

北播磨・西脇はちょうどいい田舎。都会のように窮屈でもなく、生活していて不便も少ない。公共交通は不便だが、街よりも物価は安い。リタイヤ組や都市部の高齢者を受け入れることで、新しい産業や事業を興し、若者を雇用することができるのでは。

(30年後の未来は山が中心)

81年のポートピア博では海側や海外に向かって未来が進むイメージがあったが、次の30年後は北播磨地域の山の中に向かうイメージが良いのでは。北播磨に県庁を持ってきたらいい。山の中でも今はオンラインで仕事もできるし、南海トラフ地震によるリスクも回避できる。

(地域は総論賛成、各論反対)

地域の役員は「若い人の時代だから頑張れ」と言ってくれるので「じゃあこういうことをしよう」と提案すると、「いい話だが私が区長の間はやめてくれ」と言われる。次の区長に持って行くとやはり「私が区長の間はやめてくれ」と言われる。その繰り返しで心が折れてしまった。行政に言っても「いい話だが地域の了解を得ないといけない」と言われる。

(児童数が減少)

西脇市の人口は、合併時4万5千人くらいだったが、現在は4万人を切る状態。私は子育て世代で、中学校から4歳まで4人の子どもがいるが、小学校の児童数がどんどん減っている。どうなっていくのか心配。

(個人事業主が集まる町に)

アウトソーシングを仕事としていて、西脇市を個人事業主が集まる町にしたいと思っている。一人二人、三人と起業して、それに対して報酬を得る。ビジネスを始めるには、いくら能力があっても壁があるものだが、その壁を超えやすい町になると魅力的だと思う。

(自分から能動的に発信できる子どもを育てる)

次世代の子どもには論理的思考を身につけてもらいたい。技術革新が進み利便性が増していく中で、それをうまく生かせるように、自分で論理的に思考し能動的に発信できる子どもが育ってほしい。

(分散と個性の時代)

これからの時代は分散と個性の時代。地域でパイの奪い合いではなく、これまでになかった発想や思いで何か輝けるものを生み出す。一人一人が個性を持って輝けるような未来であれば、子どもたちにも夢をもって託せる。

(ビジネスに場所関係ない時代)

ビジネスをするのに場所関係ない時代になってきた。西脇市から海外を相手にする時に場所での利益不利益は全くないと肌で感じる。土地代も安くかえってメリットを感じている。ただ、若い経営者の横のつながりがなく、やりにくいと感じるところもある。

(大都市一極集中が見直され、西脇市にチャンス)

新型コロナウイルスの影響で材料が入って来ず、工事現場がストップした。しかし、このコロナ禍で東京などの大都市一極集中が見直される流れがあり、西脇市にとってチャンスが来た。東京大阪に住まなくても、西脇市の広い家でテレワークで仕事をする事ができる。積極的に移住促進につなげたい。

(外国人との共生の仕掛けが必要)

外国人労働者が多いが、彼らとコミュニケーションできる場所がない。たとえ有期雇用であってもせっかく西脇に来てくれているのだから、行政が交流する場所などを作って、少しでも良い思い出を持って帰ってもらうなどの取組が必要では。